

SDGs17の目標を達成するためのターゲット例

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>(ターゲット1.2) 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。</p> <p>など7ターゲット</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>(ターゲット6.1) 2030年までに、全ての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する。</p> <p>など8ターゲット</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>(ターゲット11.a) 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。</p> <p>など10ターゲット</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>(ターゲット16.1) あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。</p> <p>など12ターゲット</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>(ターゲット2.1) 2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。</p> <p>など8ターゲット</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>(ターゲット7.2) 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。</p> <p>など5ターゲット</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p>	<p>(ターゲット12.3) 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる。</p> <p>など11ターゲット</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>(ターゲット17.17) さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p> <p>など19ターゲット</p>

今こそ学ぼう SDGs

最近さまざまな場所やイベントなどで、色とりどりのアイコンを目にする機会が増えたのではないのでしょうか。それは「SDGs」のアイコンかもしれません。SDGsとは何か。なぜ必要か。「私たちができること」をひもといていきます。

SDGsとは？

● **持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) のこと**
 世界人口の増加による資源不足、気候変動や貧困…。世界はさまざまな課題に直面し、このままでは持続不可能と予測されています。そこで、将来もずっと幸せな社会を実現するために、2015年、国連に加盟する全193カ国が合意をし、「誰一人取り残さない」をキーワードとした持続可能な開発目標 (SDGs) が採択されました。

● **17の目標と169のターゲット**

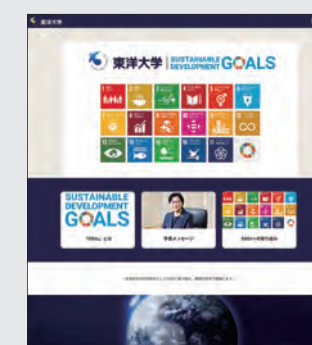
SDGsは、よりよい世界を目指すために2030年までに達成すべき「17の目標」とそれに紐づく「169のターゲット」で構成されています。貧困や教育、ジェンダーや差別といったイメージしやすい社会問題、そして働きがいやまちづくりなど、それぞれに細かい達成目標が定められています。

<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>(ターゲット3.5) 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。</p> <p>など13ターゲット</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>(ターゲット8.5) 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。</p> <p>など12ターゲット</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>(ターゲット4.4) 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。</p> <p>など10ターゲット</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>(ターゲット9.1) 全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。</p> <p>など8ターゲット</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>(ターゲット5.1) あらゆる場所における全ての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p> <p>など9ターゲット</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>(ターゲット10.3) 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。</p> <p>など10ターゲット</p>

<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>(ターゲット13.3) 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p> <p>など5ターゲット</p>
<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>(ターゲット14.1) 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。</p> <p>など10ターゲット</p>
<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>(ターゲット15.1) 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。</p> <p>など12ターゲット</p>

Point
 まずは、世界で何が起きているのかを知り、問題を意識すること。一人ひとりにとっては小さな変化でも、全世界のすべての人が同じ想いのもとで行動すれば、それは大きな変化につながります。皆で、世界を変える一歩を踏み出していきましょう。次のページでは、SDGsを研究している社会学部の米原教授にお話を伺います。

東洋大学のSDGsに対する取り組み



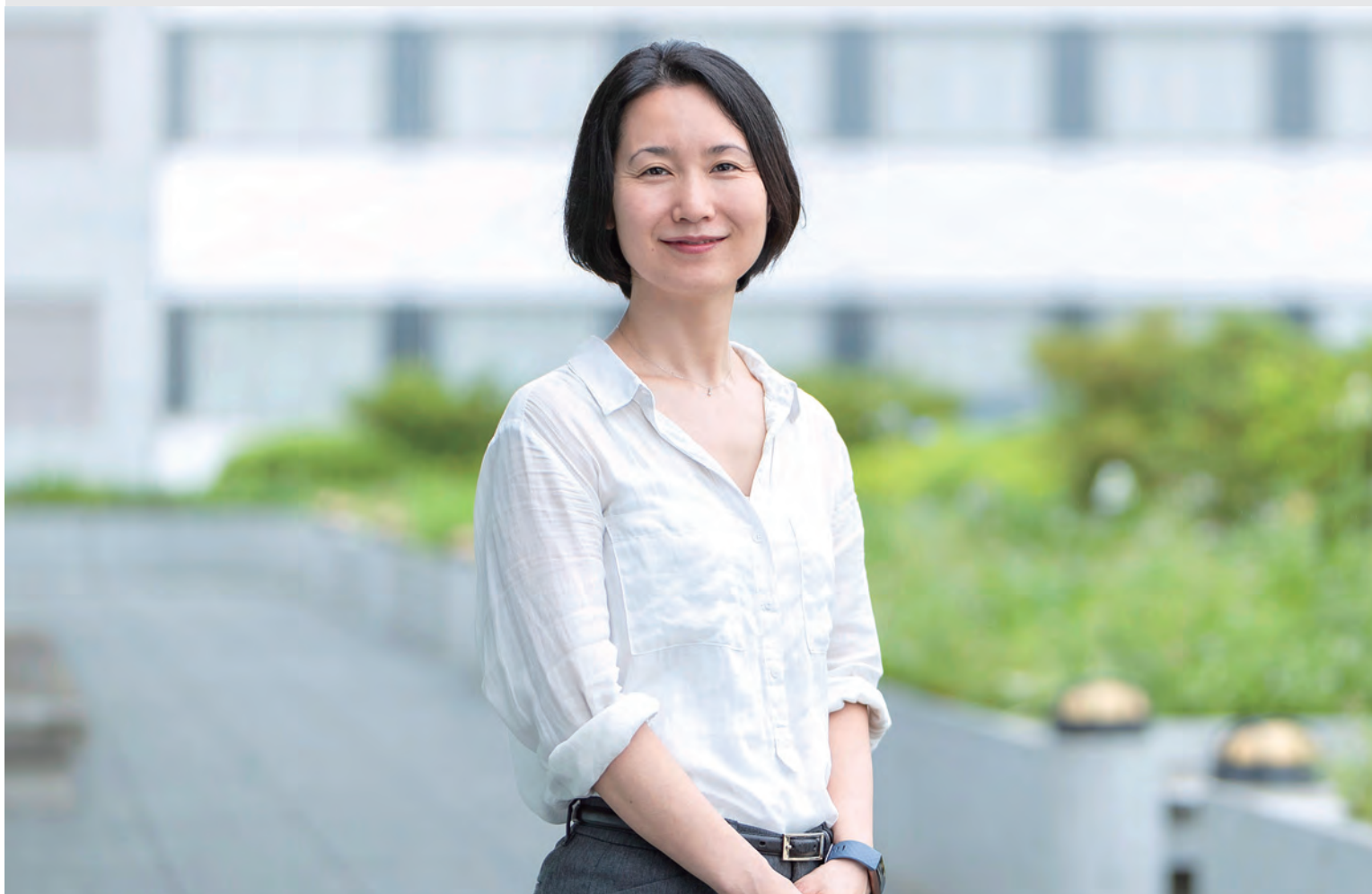
本学のSDGsに対する独自の取り組みや活動をまとめた特設サイトがOPENしました。ぜひ、ご覧ください。



東洋大学 SDGs 検索



Toyo University supports the Sustainable Development Goals



Professor's Scoop

学問の領域は広く深く、日々進化しています。

本学の教育・研究を担う教員の目に、世界はどのように映るのか。

政策評価やSDGsモニタリング評価を研究している社会学部の米原あき教授に、なぜ世界でSDGsの取り組みが広がっているのか、私たちにできることはなにか。一見難しく見えるSDGsについて説明いただきました。

社会学部社会学科 教授

米原 あき

Profile

社会学部社会学科教授。博士(教育学)。インディアナ大学大学院教育学研究科を卒業後、国際開発コンサルタント設計計画研究員、日本学術振興会特別研究員などを経て現職。比較教育政策学、国際協力論、政策評価などが専門。教育政策、人間開発論、SDGsのモニタリング評価などを研究テーマとする。

1 世界は「自分たちの問題」に気づき始めた。

SDGsの17つの目標を表すカラフルなアイコンを街中やテレビCMなどで目にする機会が増えてきました。私は開発途上国の教育政策などを研究しており、その流れのなかで国際協力やグローバルゴールにも注目しているのですが、SDGsの広がりは現在、社会に大きな転換をもたらしていると感じています。

元来、戦後から続く国際協力の考え方には「発展途上国を先進国がサポートする」という基礎があり、あくまで貧困や紛争といった問題は途上国だけの問題で、経済的に発展し豊かになれば解決されると考えられていました。しかし、先進国でも経済が発展するほど自殺者・うつ病患者の数が増え、国内の経済格差が広がるといった問題が発生。先進国も皆が幸せな世界になるには、自分たちにも課題があると気づいたのです。

この構造は今のSDGsの状況と似ているかもしれません。SDGsの目標は巨大で抽象度が高い、いわば理念です。私たち個人の日常から見ると「自分には関係ない」「遠い外国の話」と感じてしまう人もいるかもしれません。ですが、SDGsに関わる問題は私たちの日常にいくらかでも転がっています。

3 一人ひとりの選択が世界を変える。

多くの企業や団体がSDGsへの取り組みの広報活動をしているように、これからの働き方や生き方にはSDGs的な発想が増えていくでしょう。

例えば、ソーシャルビジネス。以前から企業は寄付やボランティア等を続けていますが、慈善行為は経営状態が悪化すると途絶えてしまいます。一方、社会が抱える問題をビジネスで解決することを目的としたソーシャルビジネスでは、事業として社会貢献を行うため、活動を継続していくことができます。さらに、日本の一部の銀行にはソーシャルファイナンスという考え方も浸透してきました。資本を効率的に増やすことを最大の目的とする投資の世界で、社会を良くする責任も考慮して投資を行うことです。環境破壊や紛争の原因に繋がる事業などには投資をしないと宣言することで社会問題の解決を試みています。

こうした社会の変化により、私たちも日常生活でSDGsを意識した選択が可能になりました。買い物をするお店、お金を預ける銀行、自身の就職先などをSDGsの視点で選ぶということが、最も身近な“私たちにできること”ではないでしょうか。

2 必要なのは理念を噛み砕く翻訳力。

SDGs一つひとつの目標を丁寧に見てみると、すべてが私たちの生活レベルに関わっています。ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)では、「unpack(開封)」という考え方を提唱しています。SDGs17目標を開封する。つまり、理念を噛み砕いてそれぞれの文脈にあわせて翻訳しようということです。翻訳の解釈はそれぞれの国次第、さらに言えば地域や個人次第で変わります。例えば、日本において「目標4:質の高い教育をみんなに」を考えるだけでも、過疎化が進む地方の学校と東京23区内の学校では、必要なことも大きく異なるでしょう。国、地域、企業、個人…さまざまな規模でSDGsの目標を「自分ごと」に翻訳する力が必要とされています。

私たち個人においては、スーパーでの買い物だけでも、産地を選んだり、自然環境に配慮された商品を探したり、エコバッグを使ったり…とあらゆることがSDGsに繋がる行動です。だからこそ、私たちの行動や選択がその先の人や企業、国にどのように影響し、SDGsに繋がるのかを知ることがとても大切です。きちんと知らなければ、意識して行動に移せません。

4 大切なのは、思考を止めないこと。

私は学生によく“力は知カラ”と伝えています。知ることが“力”になる。SDGsについても、まずは知ることが大切です。そうすれば、世の中にはSDGsに関わることが溢れていると気づくようになると思います。

そのためには、思考を止めないことが大切です。最近ではプラスチックゴミ削減のために、レジ袋が全国一律で有料になりました。一方で、プラスチックの素材や生産で産業が成り立つ地域や企業にどのような影響があったか考えたことはありますか。環境破壊を抑えるために優先してすべきことは、他にもあるかもしれません。物事にはすべてを解決する万能薬はないのです。SDGsもさまざまな分野で、多くの要素が絡み合っているため、一人ですべてを専門的に学ぶのは不可能です。だからこそ1つの考え方を正しいと思わず、いろんな角度で議論が行われることが大切だと思います。

SDGsの活動は今が黎明期。これから社会に出る学生の皆さんには、SDGsの視点で社会課題を見る目を養い、それを伝える役割を担ってほしいと思います。